

〔釈文〕

とてつるけんかへ哥  
さてもそうどうしんしうハ  
まいるひとくしよこく  
から

よるどさくなまづニ

おそれやす

ひやうばん

なかく

たいそうだ

ばさまハ

によらいにすくハれた

ぢいハほうくとてつるてん

のがれてかへりましよ

(附箋)

頃ハ効果四年三月二十四日夜四ツ時、信州大地しんにて東西  
二十里南北十里余の間

ゆりくつれ、その上出火いたし所くやける、いなり山ゆる  
き出し、丹波川へくづれこみ、九十

余ヶ村のあいだ死するもの数しらず、翌廿五日の夜四ツ過、  
大地のさけることやみ、二十八日の昼過に

いたりてやうくゆることやむ、ふしぎなるハ善光寺の本堂  
山門ばかり曆然たる事きたいなり